

学科名	学年	授業のタイトル (科目名)	
工業専門課程 情報処理システム科	2	気象観測・予報実習	
授業の種類	授業担当者	実務経験	
<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	大西 健太郎	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
[実務経歴]			
気象予報士の資格を取得後、民間の気象会社に勤務。日々の予測業務を中心に、細かな情報解析や予測を行う。			
単位数 (授業の回数)	時間数	配当時期	必修・選択
4 単位 (60 回)	120 時間	<input type="radio"/> 前期 <input type="radio"/> 後期 <input checked="" type="radio"/> 通年	<input type="radio"/> 必修 <input checked="" type="radio"/> 選択
[授業の目的・ねらい]			
①専門天気図の解析、予測のスキルを身につける ②短期予報解説資料の解釈の仕方および天気概況文の作成スキルを身につける ③気象観測についての知識の習得 ④観測システムやデータの取り扱いスキルを身につける			
[授業全体の内容の概要]			
①専門天気図等の見方・予測について ②気象観測システムとは ③観測データの取り扱いについて			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
専門天気図の見方を習得し自身で72時間後までの気象予測を行うことができる。気象観測の概要を理解できる。			
[準備学習の具体的な内容]			
毎授業ごとに復習の有無の確認を行い、講義・実習を進める。授業終了時には、講義内容の確認と次回の授業内容を説明し、復習・予習ができるようにする。また、長期休みの時は、課題を実施する。			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び評価の基準]	
使用テキスト プリント教材(日本コンピュータ専門学校)		定期試験と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・試験の点数は60点以上を合格点とする。 ・全出席日数の4分の3以上の出席が必要。	
参考文献 必要に応じて授業の中で紹介する。		評価基準 定期試験50%、平常点(出席、講義の参加度)50%とする。	
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1回	観測、予報実技1		
2回	観測、予報実技2		
3回	観測、予報実技3		
4回	観測、予報実技4		
5回	観測、予報実技5		

6回	観測、予報実技6
7回	観測、予報実技7
8回	観測、予報実技8
9回	観測、予報実技9
10回	観測、予報実技10
11回	観測、予報実技11
12回	観測、予報実技12
13回	観測、予報実技13
14回	観測、予報実技14
15回	まとめと振り返り
16回	観測、予報実技15
17回	観測、予報実技16
18回	観測、予報実技17
19回	観測、予報実技18
20回	観測、予報実技19
21回	観測、予報実技20
22回	観測、予報実技21
23回	観測、予報実技22
24回	観測、予報実技23
25回	観測、予報実技24
26回	観測、予報実技25
27回	観測、予報実技26
28回	観測、予報実技27
29回	観測、予報実技28
30回	まとめと振り返り
31回	観測、予報実技29
32回	観測、予報実技30
33回	観測、予報実技31
34回	観測、予報実技32
35回	観測、予報実技33
36回	観測、予報実技34
37回	観測、予報実技35
38回	観測、予報実技36
39回	観測、予報実技37
40回	観測、予報実技38
41回	観測、予報実技39
42回	観測、予報実技40
43回	観測、予報実技41
44回	観測、予報実技42

45回	まとめと振り返り
46回	観測、予報実技43
47回	観測、予報実技44
48回	観測、予報実技45
49回	観測、予報実技46
50回	観測、予報実技47
51回	観測、予報実技48
52回	観測、予報実技49
53回	観測、予報実技50
54回	観測、予報実技51
55回	観測、予報実技52
56回	観測、予報実技53
57回	観測、予報実技54
58回	観測、予報実技55
59回	観測、予報実技56
60回	まとめと振り返り